

光市医師会報

平成7年11月号

No. 277



10月8日

光市医師会

第101回 周南医学会

と き 10月8日(日) ところ 光市民ホール

周南医学会総会

近藤会長挨拶

本日は雨の降る中を皆さんおいでいただきまして、誠に有難うございました。本学会は21題という多数の演題をいただきまして、又、大変に興味深い演題を頂戴致しました。誠に有難うございました。特に開業医の先生方はグループあるいは個人で6題の演題を出しいただきまして、大変心強い気がいたします。是非ともこういう状態が続いていくようお願い致します。

周南医学会も昨年100回の記念大会を迎えまして、本年は101回という事でございます。周南医学会を取り巻く環境も変わってまいりまして、県の医学会でありますとか、県のセミナー、あるいは各医師会の研修会、専門学会の認定医の単位を更新するための研修会、薬剤会社による研修という具合に大変研修会が増えてまいりまして、我々としては応接にいとまがないという状態でございます。そういう状態の中で周南医学会は一体どういうふうな方向をとっていくべきか、今迄通りでよいのか、あるいは何か新しい考えにもとづくものかというものをそろそろ検討すべき時期に来ているのではないかと思います。是非とも皆様方のご活発なご意見をいただければ幸いに存じます。

本日は不行届きな点が大変多ございまして、ご迷惑をかけたかと存じますが、どう



ぞ我々に免じてお許しいただきたいと思えます。午後は公開講座という形で特別講演を2題用意いたしておりますので、是非そちらにもご参加いただきますようお願い申し上げます。

本日はどうも有難うございました。

上田尚紀先生挨拶 (県医師会理事)



山口県医師会で生涯教育を担当しております上田でございます。本日藤野会長が都合が悪く参加できませんので、私が会長に

変わりまして一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本日は第101回の周南医学会が、かくも盛大に開催されました事を心よりお礼申し上げます。

本会は昭和2年に徳山市において開設総会が開かれたと伺っておりますが、本年迄68年間という歴史の重みと、それを支えて下さいました会員の諸兄氏に心より敬意を表するものでございます。

わたくし共医師は環境がいかに変化いたしましても、上質の医療を提供するために生涯学習やあるいは自己研修をおこなわなければなりません。これは医師としての義務であると考えておりますが、その事をふまえて昭和62年に日本医師会におきましても生涯教育制度というのを設立いたしました。でその目的といたしますところは医学的課題だけではなくて、医療的課題をも含めまして全人的医療をやろうという事がその骨子でございます。

本日のプログラムを拝見いたしますと、午前の部につきましてはほとんどすべての科から開業医、勤務医の先生をとわず演題が出されておまして、まさに医学的課題の病診連携ではなかったと感じております。更に午後の部をみますと、光市当局の多大のご支援のもとに医療的課題についての市民公開講座が開催されんとしております。このような素晴らしい本学会の中味をどうぞ皆さんは心に留めおかれて、明日の医療の糧として下さる事を期待しております。

終りになりましたが本会を開催するにあたりまして、多大なご尽力をつくされました光市医師会の関係各位に心より感謝致し

ますとともに、ご参会の皆様方の今後のご発展を祈念致しましてお祝いの言葉とさせていただきます。お目出度うございます。

藤原敏雄先生挨拶

(下松医師会副会長一次会引受)



本日はこの立派な会場におきまして、医学会として花も味も美しく見事に充実したこの周南医学会を開催されまして、誠に敬服にたえません。光医師会の会員の皆様方の並々ならぬご尽力に対しまして敬服し、心から感謝を申しております。

来年は下松医師会が担当する事になりました。この素晴らしい伝統を持った周南医学会を汚さないように、下松医師会員の総意を結集いたしまして準備に取りかかりたいと思います。そして少しでも皆様方のご期待に添えますよう企画し、努力してまいり積りでございます。来年の下松市でおこなわれます周南医学会には、皆様多数ご参加下さいますよう、下松医師会員一同、皆様のお越しをお待ちしております。簡単でございますがご挨拶いたします。

特別講演—市民公開講座

(共催……光市)

「未来の長寿医療

—痴呆の制圧を目指して—

国立中部病院院長 井形昭弘先生



(座長 板垣先生)

「うつろいの美学

—中原中也・人と作品—

中原中也記念館長 福田百合子先生



(座長 竹中先生)

末岡光市長挨拶

皆様、只今ご紹介頂きました光市長の末岡でございます。何時もですと親しく皆様とご挨拶をさせていただくのでございますが、今日は周南医学会という事で、そうそうたる先生方がお集りでございますし、また名古屋からも素晴らしい先生をお迎えしての公開講座でございます。失礼があつては大変でございますので、一寸メモを作って

おりましてそれをあわせましてご挨拶させていただきますいなと思っております。

今日は周南医学会、朝から周南地区の先生方がお集りになりまして、本当にご熱心なご討議がつづいて参ったわけでございます。そして更にこのような市民公開の講座を開催させて頂きました。光市医師会の方々のご厚意でございます、本当に皆様と

ともに感謝を申し上げたいと思います。

本日ご講演をお願いしておりますのは井形昭弘先生、福田百合子先生でございます。それぞれ著名なお方でございますので皆さまもお名前をご承知かなと思いますし、大変有意義なお話しが聞かせていただけるものと思っております。遠路おいでをいただきました両先生には心からご歓迎を申し上げますとともに、感謝を申しあげたいとこのように思っている所でございます。

この講演会を主催していただいております周南医学会は、昭和2年に設立をされておられます。101回という事でございまして、私もどのような形で年一回では一寸古い頃からはじまったのだと思っております。年に2回の時期もあったようでございますけれども、今は1年に1回このような研究会をなさっておられるようなわけでございまして、私ども地域住民の医療と健康確保のため連綿と取り組まれて多大なご貢献をいただいております。本席をお借りしまして、関係各位の永年のご努力に対しまして深く敬意を表する次第でございます。

さて光市では、まあ光市のことも少しPRさせていただきたいのでございますが、きたる21世紀の将来像ですね、人間性豊かな活力ある快適環境都市と定めておりまして、その実現に向けて日々取り組んでいるところでございます。今更申し上げる事もないのでございますが、皆様もいろんな事を通じてご承知かと思いますが、我国の平均寿命は男性が76.57才、女性が82.98才という世界一の長寿国になっておりまして、この高齢化率は世界にももちろん例のない



スピードでどンドンすすんでいるわけでございまして、光市におきましても65才以上の方が7880人もおいででございます。高齢化率になおしますと16.38%というような数値でございます。これが25年後の西暦2020年には人口の4人に1人が65才以上の高齢者で占められるという超高齢化社会が到来すると予想をされているわけでございます。100才以上の方が光市も6人もおいでございまして、大変お元気でお過ごしになっておられます。まあこうした長寿社会においては勿論、誰もが豊かでそして健康でなければならないという大きな課題をかかえているわけでございまして、そうした問題を解決していかなければならないわけでございます。そのためにご承知のように国におきましても大きな施策として、ゴールドプランというようなものを策定いたしまして、高齢者の福祉、保健そして在宅福祉基礎作りを目指して努力が続いているところでございます。光市も健康で暖く助け合う街づくりを目指しておりまして、医師会の皆様やそして関係機関の諸団体、市民の皆様方の格別なご理解ご協力を賜わりながら計画の実現に向けて邁進をしているところでございます。

本日の市民公開講座はこうした長寿社会に向っての大きな課題でございます痴呆の

問題と、そして昭和の詩人中原中也の人となりというような題でそれぞれ両先生にお話を聞く事にしております、私達にとっても非常に興味深く意義有るものでございます。どうぞ最後までゆっくりにご聴講下さいますようお願い致します。小ホールで予定をいたしましたのですが、もう立錫の余地もなく、後の方ではお立ちのお客さんもおいででございます。急拠大ホールにというような事も考えられましたのですが、あいにく丁度準備等に手間どりまして、このままの予定で進行させていただければ

とこのような考えであるところでございます。

終りでありますが光医師会の近藤会長先生をはじめとす各会員の先生方に深くこうした機会を与えていただきました事を感謝申し上げますとともに、本日ご参集の皆様方のご健康と周南医学会のますますのご発展をお祈り致しましてご挨拶にかえたいと思っております。

本日は本当によろそおいで下さいませ。どうぞ最後までゆっくりにご聴講下さいませ。有難うございます。

一般演題プログラム

◎ 座長 柳井医師会長 野田三郎

1. 「α-グルコシダーゼ阻害薬の使用経験」

岩国臨床糖尿病懇話会 ○岩崎皓一、石井明光、大久保正士、岡藤浩一郎、
川田礼治、松原 淳、村野健兒、山崎浩子、

2. 「肝における良性腫瘍の超音波所見」

森岡外科 ○森岡 久、
徳山中央病院 内科 井上幹茂
外科 舘林欣一郎

3. 「Lemme I 症候群の2例」

岩国超音波同好会 ○木村直躬、玉田隆一郎、川野 亮、
山田輝城、山田 孟、岩崎皓一、藤本郁夫、
藤本俊文、荒田寿彦、松浦 宏、西岡義幸、
片山恵之、福田瑞穂、河野 忍、

◎ 座長 玖珂郡医師会長 藤中節夫

4. 「慢性硬膜下血腫18例の検討」

弘田脳神経外科 ○弘田直樹、

5. 「下松市における小児成人病予防活動（第5報）」

小児成人病予防対策委員会 ○古谷 翠、

6. 「錦中央病院で経験した抗酸菌感染症」

錦中央病院 ○瀧田 覚、前川恭子、下田宏二、上利 進、

◎ 座 長 大島郡医師会長 嶋元 貢

7. 「老人性痴呆疾患患者の動向とその意義についての考察」

一泉原病院における同専門病棟開設1年半から見て一

愛命会 泉原病院 ○吉田 延、大塚和彦、佐藤清彦、大津和生、
小原奈美、加藤千里、原 伸一、
武藤多鶴子、鈴木 幸、

8. 「当院における腹腔鏡下手術の検討」

錦病院 ○玉田隆一郎、川野 亮、武富紹信、江口大彦、

9. 「前立腺肥大症に対する外来V-LAPの経験」（ビデオ使用）

徳山中央病院腎総合医療センター ○那須誉人、白石晃司、鎌田清治、
三井 博、林田重昭、

◎ 座 長 岩国市医師会長 三井 博

10. 「急性心筋梗塞に対するdirect-PTCAの成績および効果」

徳山中央病院 循環器内科 ○小川 宏、分山隆敏、中司昌美、山本 健、
和崎雄一郎、小野 薫、

11. 「周期性四肢マヒにて診断した甲状腺機能亢進症の1例」

下松記念病院 内科 ○河村裕子、
外科 丹山 桂、

12. 「毒キノコ（ツキヨタケ）グループ中毒発生の1例」

河村医院 ○河村康明、河村裕子、

◎ 座 長 熊毛郡医師会長 岡本 詢

13. 「肺炎桿菌により発症したFournier's gangreneの1例」

下松記念病院 外科 ○藤原敬旦、秋本文一、丹山 桂、

14. 「神経を観察しえた胃カルチノイドの1症例」

岩国市医師会 ○大島真理、藤本俊文、松浦康彦、
岩国市医療センター医師会病院 吉村 清、足立 淳、内山哲史、
倉光達也、村上桌夫、
山口大学第一病理学教室 権藤俊一、

15. 「両眼に重度の白内障を伴った痴呆患者の1例」

光輝病院 眼科 ○向井 聖、

◎ 座 長 徳山医師会長 光永 徹

16. 「腸管壊死症例の臨床病理学的検討」

清志会 藤政病院 ○藤政篤志、藤政浩志、藤政志朗、

17. 「穿孔性腹膜炎を併発した多発性空腸憩室の1例」

国立療養所柳井病院 外科 ○竹本将彦、高橋 護、沖元達也、山中達彦、
岡田和也、田村泰三、
内科 十河泰成、

18. 「腹部大動脈瘤における3D CTスキャンの有用性について」

周東総合病院 外科 ○中村 丘、金沢 守、松井則親、守田知明、
兼行俊博、

◎ 座 長 下松医師会 副会長 藤原敏雄

19. 「高度内反膝変形と胫骨巨大骨欠損を伴った両変形性膝関節症に対する人工関節置換術の経験」

下松記念病院 整形外科 ○村田英明、市原義郎、

20. 「転移性骨腫瘍を疑われた変形性股関節症の治療経験」

下松記念病院 整形外科 ○村田英明、市原義郎、
外科 藤原敬且、丹山 桂、

21. 「正常分娩後に発症したHELLP症候群の1例」

梅田病院 ○岩本麻里、香浦留美子、大月恭範、梅田 馨、
光市立病院 内科 赤崎信正、

(一般演題の中から河村先生が発表されました演題を掲載いたします)
(河村先生にお借りした原稿です。)

毒キノコ (ツキヨタケ) グループ中毒の1例

河村医院 河村康明 河村裕子

発症および経過

平成6年9月18日 大山山ろくのハイキング旅行を4家族8人で行き、

5:00PM頃帰宅した。

7:00PM頃よりハイキングの途中で採取した「ぶなしめじ」を焼いて食べ初めて、嘔気・嘔吐が連続して出現したため、

8:30PM頃TELで「毒キノコ」を食べたので診て欲しいと連絡があり、

8:45PM N. K. 家族4人が来院

N. K. 43才 男 血圧116/70脈拍80 /分 瞳孔3mm (8ヶ食べた)、

N. K. のみ嘔吐が強く(他の3人は軽症)、補液を施行、他の3家族

族にTEL連絡をとる。

9:30PM E. S. (嘔吐・下痢)52才男および妻(嘔気)来院(1ヶ食べた)

血圧126/80脈拍84 /分 瞳孔3mm

N. K. 補液1000ml施行するも利尿がつかず、総合病院へ搬送・入院

10:15PM H. S. (嘔吐) 53才 男来院 血圧122/80脈拍72 /分 瞳孔4mm (1ヶ食べた)

11:00PM A. H. (嘔吐) 51才 男来院 血圧150/110 脈拍80 /分 瞳孔3mm (3ヶ食べた)

検査内容

	N. K. 43才		E. S. 52才		H. S. 53才		A. H. 51才	
	当日	2日後	当日	2日後	当日	翌日	当日	翌日
白血球	9500	14200	6400	5200	8900	8000	5500	5200
赤血球	474	480	440	425	486	479	545	507
Hb	14.8	15.2	13.5	13.0	14.3	13.9	16.8	15.8
Ht	45.0	46.0	41.0	40.0	43.0	43.0	50.0	47.0
血小板	23.8	20.8	17.9	17.2	26.7	27.5	17.7	17.5
GOT	28	16	28	20	25	18	67	55
GPT	20	14	23	19	24	19	39	42
Alp	134	122	132	119	145	129	131	118
LDH	420	362	396	328	403	313	626	404
γ-GTP	11	11	18	15	21	20	95	75
Ch-E	4434	4362	5634	5014	6073	5666	7403	6554
BUN	12.5	17.8	19.5	13.7	21.9	18.9	20.5	18.3
Creatinine	1.0	1.0	1.0	0.9	1.1	0.9	1.2	0.9
CPK	368	146	318	196	282	178	3616	2114
CPKアインザイム	mm100%	mm100%	mm100%	—	mm100%	—	mm100%	—
ミオグロビン	30	47	28	53	61	—	429	—

(考案)

ツキヨタケは標高1000m前後のブナ林の枯木に生育する毒キノコで日本の毒キノコ中毒の30~50%を占めると言われている。

①症状は嘔気・嘔吐・下痢の急性胃腸症状が主体で少なくとも昭和45年以後には死亡者は出ていない。その毒成分はイルジニンM・イルジニンSと考えられている。

その形態はシイタケに類似しているが、比較的、柄の部分が短く、ヒタの部分は夜間発光を呈するのでこの名前がある(図1・2・3)。その縦断面では柄の部分に黒い斑点があり、他のキノコとの重要な鑑別となっている(図4)。

本症例は計8人の中毒症例であるが、採血患者4名はいずれもCPK値の異常を伴い最高値は3616 Iu/Lであった。同時にミオグロビン値も高値となり腎不全の危険性を考えながら経過観察を行うことが重要と思われた。CPKの上昇はmm100%であることから骨格筋由来と推測され、そのetiologyは②acute stress patternに伴う(1)emergency reactionとして交感神経興奮に伴う各種動脈収縮に伴う変性壊死(2)各種のstressに対してエネルギー産生を必要とするため、骨格筋の燐酸エネルギーを用いる必要性があり、クレアチニン燐酸→クレアチニンの過程でCPKの高値を呈するなどが考えられる。毒キノコに関する色々な言い伝えはあるが、キノコ中毒を予防する有効な手段ではなく欧米での“if you don't know for certain what it is don't eat it.”と表わされているが如くであろう。

(参考文献)

1. 今関六也ほか：日本のきのこ P.62 山と溪谷社、東京、1992。
2. 千代孝夫、赤松道也、松尾信昭他：薬剤中毒患者にみられる高CPK血症とその重症度判定への応用 救急医学12：1649~1655、1988



図1、ツキヨタケ(表)



図2、ツキヨタケ(裏)



図3、ツキヨタケ(比較)

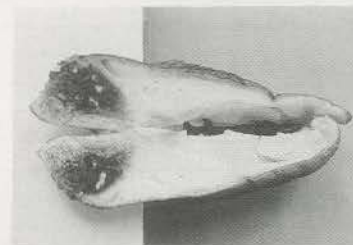


図4、ツキヨタケ縦断面(柄の部分に黒い斑点がある)

〈会員特別寄稿〉

座長雑感

八月中旬に近藤会長より、電話で周南医学学会に於いて市民公開講座の第二席、福田百合子先生の中原中也に関する特別講演の座長をつとめる様に依頼があった。以前に自分が会長時代、山口県医学会、周南医学会を引き受けた時は引き受け会長の義務として己むを得ず医学講演会の座長をつとめた事はあるが、今回の様な市民公開講座でしかも文学的な講演の座長は始めての事なので非常に困惑した。福本前会長の名前を出したり、万年文学青年？をもって任じられる河内山 清先生にお願いする様に頼んだが、「講師の紹介だけして頂ければ良いのだから……」と何となく近藤会長に云いくるめられて心ならずも引き受ける破目になった次第である。

楮、自分自身文学とは全然無縁な男であるので、中原中也についても山口県の生んだ有名な詩人であると言う位の事しか知識がないのもう少し中原中也について知っておかなければ、座長としておこがましい様な気がするし、又講師に対しても失礼であると思って八月下旬残暑のきびしい頃、湯田温泉にある中原中也記念館を訪ねた。

記念館は平成六年の開設で新しく小ぢんまりとした感じの良い建物で、中原中也に関する展示は家系から始めて生い立ち、交友関係等が非常に分り易くなっており、彼の祖父、父が山口で開業医として活躍されていた事を始めて知った次第で、この様な関係で光市医師会が講演題材を選ばれたのだろうかと考えたが真意の程はわからない。

竹中昭二

近藤会長が、赤崎準備委員長に折があったら尋ねてみたいと思っている。

資料によると中原中也是三十才の若さで夭逝したが、小学校時代は非常に成績が良かったが中学（旧制）時代から文学方面にのめりこんで成績も低下し、自由奔放な生活を送り、結婚後も親から生活費を送金して貰う様な当時親からみれば不肖の子であったろうと推測していたが、福田先生の講演を聞いて親の気持、本人の文学に対する意志の強さ等を知り、従来考えを改めた様な事であり矢張り話は聞いてみないとわからないものだと云う事を痛感した。

話は前後するけれども、周南医学学会の開催の数日前になって市民公開講座の集りが悪いと云う事で近藤会長も激文を飛ばしたりして心痛された事と思うが、私も座長をつとめる立場で聴衆が少ければ困った事と思い、私なりに人集めに動いたのであるが当日は立錐の余地もない程の集りで近藤会長もホットされた事と思う。光市医師会員が多大な協力をされた御陰と思っている。アメリカの故ケネディ大統領の比喩を出す様であるが、医師会が何かをして呉れるかと云うよりも医師会員が医師会に何をすべきかを実践された賜であると感じいった次第である。

当日の講演内容については他にゆずるとして今回座長を引き受けて思った事は専門外である文学的事項について少しでも知ろうと云う意欲が湧いた事は私なりにメリットがあった事である。

しかし、当日演者の紹介でとちったりして（平成と昭和の年号間違）演者には迷惑をかけるし、近藤会長の顔に泥を塗った様な形になり不馴れな事はやるものではない

と反省している次第である。今後は恐らく座長をやらされる事は無いと思っているが若し要請される様な事があつたら、親の遺言だと云って断る心算りである。

〈会員特別寄稿〉

周南医学会をふりかえって

平成7年10月8日夕、特別講演の先生方を徳山駅までお見送りし、約10ヶ月の周南医学会準備委員会の仕事を終り、重い荷が肩よりおりて、重責からようやく解放されました。

ご承知のとうり第101回周南医学会は大変盛況裏に終り、進行の松村、設営の兼清、受付の河村の各先生、当日会場にて色々な仕事を分担していただいた理事・会員の先生、市役所の市民部、市民ホールの方々、梅田病院の受けの方々及び関係者の皆様深く感謝いたします。

振返ってみますと、第101回周南医学会を光市が引き受けると決定して以来、昨年10月に理事会がひらかれ、理事と松村、兼清、河村の各先生に加わって頂き、周南医学会準備委員会ができました。前回の引き受けの時のメンバーは近藤会長以外はおられず、それ以外の委員は新任で、以後の会議は試行錯誤の連続でした。第1回の会議は11月に開き、日時・場所、内容を決め、特別講演等についてはアンケートを出すことになりました。結果は医学講演1題、文化講演1題とし、昼からは市民公開講座としても宜しいとの承諾をいただきました。

赤崎信正

さて、文化講演は福田百合子先生に中原中也の講演をお願いすることがすぐに決まりましたが、医学講演の内容はなかなか決まりませんでした。昨年の夏に私が大阪の学会に行った時、いたく感銘を受けた講演を思い出しました。“きんさん、ぎんさん”の話し、アルツハイマー病を主とした痴呆のアグレッシブな研究、治療また話術の巧みな事にいたく感動いたしました。何時か光市にお招きし、是非会員に聞いて貰いたいと思っておりました。準備委員会でもなかなか適当な候補(題)が見つからず、学術担当理事の責任と思い、大阪の講演を推薦いたしました。時節柄、相応しい内容との了解をえましたが、後で、このことが大変なこととわかりました。あるプロパーさんを通じて大阪で講演された井形先生に講演を依頼したところ、先生は鹿児島大学学長などの要職を歴任され、退官後には紫授褒章を受賞され、昭和天皇の御在位60年を記念して、長寿センターをつくるべく2年前に、中部病院長になられた由とのこと。本学会にお招きするには余りにも輝かしい経歴の持ち主で、失礼にあたらないうるかと思い悩みました。

近藤会長に相談すると、いとも簡単に頼むだけ頼んでみたらとの軽い口調により勇気づけられ、平成7年1月11日に愛知県大府市に講演のお願いに行きました。井形先生に面会致しますと、大変きさくな方でした。周南地方はゴルフ場が近くにあって、フクの美味しい所と宣伝したわけではないのですが、快よく講演を引き受けて頂き大役が果せてほっとしました。

それから6日後に病院で当直をしていますが、早朝にご存じの関西大地震があり、神戸市を中心に壊滅状態となり、以後当分の間、名古屋に新幹線でゆくことができず今考えてみますと大変に幸運でした。

其後、毎月1回準備委員会を開き、6月の委員会で最終のスケジュールをきめました。演題の締切りは8月末とし、以後、本格的な準備にはいるようにしました。各医師会のご協力により、とくに宣伝することなく21題の演題が集り、あとから来た演題の3、4件をお断りするほどでした。

早速、パンフレットの作成にかかり、表紙の写真は光市らしく室積海岸のヨットのある風景とし、裏には久保勝史氏の書かれた普賢寺の山門のスケッチの絵にしました。パンフレットが出来て今迄の各医師会のパンフレットと比べてみますと、偶然にも8年前の光市のものとほぼ同じ写真だったので驚きました。次回の引き受けには是非他のもの、たとえば島田の人形浄瑠璃の写真等にさせていただくようにお願いします。

9月より徐々に事務局の人と準備にはいりました。ワープロでポスター、案内板を作成しました。当日の仕事については、自主的な応募とし会員の意識をたかめたいと



考え、仕事の内容をグループに分けアンケートをだしました。その結果、多数の会員の先生に参加いただきました。ありがとうございました。特に女性会員の三浦先生の設営の自薦、ご活躍いただきましたのはとても印象にのこりました。

さて、10月6日より始動開始です。その夜広島まで井形先生をお迎えに行き、松屋ホテルへ案内しました。丁度その頃にある大事件がおこっていました。家に帰りテレビをつけると、上祐氏の逮捕をつけていました。井形先生は若い頃、海軍兵学校に在学されておられましたが、岩国の錦帯橋を見られたことがないとお聞きし、岩国城、白へび、錦帯橋を案内することにしました。先生は、岩国城よりみた錦帯橋と昔を思い出されたのか、海軍兵学校のあった江田島の方向を感慨深げに長く眺めておられたのが印象的でした。

10月8日、学会当日は残念ながら雨。午前8時に会員は集合し準備万端終了。開会の挨拶後、一般演題開始。午前中の会員の参加は予想したよりも多くひと安心でした。午前11時頃に近藤先生の折りが通じたせいか、雨も上がりました。この間にお二人の講師の先生は、市川先生の案内で普賢寺、雪舟庭、室積の磯部の見学をしていただきました。また、あとで聞くと二人の講師の

先生の年月日が全く同じ昭和3年9月16日生れで、偶然とはいえ驚きました。

午前に予定した一般演題、周南医学会総会も、ある座長の先生が言われたようにJR並みのスケジュールで無事終了しました。しかしこれからが一番の緊張です。会員の先生に早く食事を取っていただき、昼からの特別講演の準備に入っていただきました。準備委員会としては、午後の特別講演の聴衆の入り具合が気になります。しかし、12時45分より、どんどん聴衆が集り小ホールが一杯になり、会長以下ほっとしました。光市会員の先生に補助椅子を用意していただきましたが、間に合いませんでした。市民の一部の方、光市会員の先生方は全く会場に入れず、申し訳れなく思っております。そのうえ、会員の先生には日頃あまりしたこともない椅子はこび、光市民を会場への案内と、ご苦労をおかけしました。

定刻に末岡光市長さんの挨拶で始まり、板垣先生の座長で井形先生の講演、竹中先生の座長で福田先生の講演と移ってゆきました。残念ながら会員の先生も私も、ホール内の交通整理の為、何も聞けない状態でした。後でビデオを見てみますとなかなか素晴らしい講演だったと思います。井形先生の講演の始めの100年前に読売新聞ができたことと、当時の新聞記者の100年後の予想の深さには感嘆しました。

最後をお願いを致しますが、各医師会の準備委員会の一番の苦労は、午後からおこなわれる特別講演の聴衆の人数の確保だと思います。来年は特に隣りの下松医師会の主催になります。是非午後からの周南医学会にご参加いただきたいと思います。

第101回周南医学会にお世話になった方々にあらためてお礼申し上げます。

《会員特別寄稿》

○第101回周南医学会

平成7年10月8日に、第101回周南医学会が、光医師会引受けで、光市民ホールにて開催されました。近藤会長、赤崎実行委員長、お疲れ様でした。

光医師会の理事の先生方に混り、我々若手3人（松村、河村、兼清）が加わって、実行委員会ができました。1年間の苦労を振り返りますと、

1) プラス3人について

赤崎先生の説明によりますと、光市出身の人の方が、光医師会に対して愛着心が強

兼 清 照 久

いので、よく働きたろうし、将来のこともあるので3人を選んだとのこと。そう言われると、必死で働くしかありません。

2) 特別講演の講師について、

赤崎先生が、何の気なしに決めたそうですが、この2人が以外と大物で（業界では）、かえって心配の種となりました。「礼金は、こんなに安くていいのだろうか?」、「聴衆が少なくは気を悪くされないだろうか?」など色々でてきました。結局は、色々なコネでうまくいった様です。

3) 市民公開講座について、

予算は少ないし、他市より来る先生方は自分の発表が終わったらゴルフに行って、観客がいなくなるらしいということでした。そこで考え出されたのが、市民公開講座として、お金も人も援助してもらおうという、コペルニクス的大発想でした。流石に、近藤先生が出されたのの案の大ヒットで、全てがスムーズに行きました。市長も来てくれるし、宣伝カー、駐車場係まで出してくれ、本当に助かりました。さらに、観客もホール一杯になり、講師の機嫌も悪くならずすみしました。

4) 会場設営について、

これは、私が、光高同窓会の世話などで慣れているので適任だろうということで、任されました。光工房に、立て看板、横断幕などを、小ホールのサイズに合わせて依頼しました。舞台に上がる階段が1つしかなかったので急遽、大工を呼んで作ってもらいました。また生花も、活けてもらいました。習字のできる光高の同級生に来てもらって大きな字を書いてもらいました。前日に、会場を設営したのですが、多くの医師会の先生方が手伝いに来て下さり感激しました。重いテーブルやイスをたくさん運んだので腰が悪くならないか心配でした。(高令の方もいらっしゃるので)近藤先生や赤崎先生の奥様まで手伝っていただき有難うございました。多勢の方の力をお貸りしまして、無事全ての準備は前日でき上がりました。

5) 観客の動員について、

PTAに頼んであるので350人は、確実にという話だったのですが、直前になって、

他の行事と重なっており50人くらいしか参加者がいないということがわかりました。これには、皆、慌てました。そこで、仕方がないので、各自が動員をかけることになりました。当院でも、各患者にパンフレットを配り、さらに職員にそれぞれ、50枚づつ自宅の周囲の家のポストへ入れて回るよう言いました。その甲斐あってか、当日、観客が小ホールに入りきれない程来られた時は本当に、嬉しかった。

6) まとめ

その他、私の知らないご苦労が数々あったと思います。そんな中で、多くの人の協力により、周南医学会が、大成功のうちに恙なく終えることができたのは、偏に、近藤会長、赤崎実行委員長の人徳の賜物であろうと思います。本当に、ご苦労様でした。

医学会会員役割分担

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 1. 受付 | 藤村、河村、金、梅田病院(3人)、 |
| 2. アナウンス、進行 | 松村、米今、高橋(秀)、松本(光市)、栗山(梅田病院) |
| 3. スライド受け | 藤原、郡、小西、 |
| 4. スライド映写 | 光武、道上、清水、薬品会社(1名)、 |
| 5. 記録(撮影) | 吉村、高橋、(建)、(専門家に依頼) |
| 6. 会場設営 | 兼清、守友、大月、藤山、三浦、赤崎、 |
| 7. 案内 | 近藤、前田、中村(琢)、市川、田村、 |

〈会員活動スナップ〉



〈会員広場〉

タイ旅行(スコタイを訪れて)

バンコックの友人から、事業の発展振りを見物旁々、スコタイ王朝の旧蹟を尋ねてはとの案内があったので飛び休を利用してバンコックを訪れた。友人F君が居るので数回バンコックに出掛けたものの、あれもこれもと欲張った旅なので、今回はゆっくり四泊五日の旅行を試みた。旧蹟の見物、うまい食物の探索、オリエンタルホテルえの宿泊を目玉として家内を同伴する事にした。

9月13日午前中のみ診療。昼から抜け出す。さすが後めたいので、スーツケースは先に空港え送り、身一つで家を出る。

福岡を夕方6時に出発。タイ航空のクラスはまあまあのサービス振りである。2時間の時差で、夜中10時にバンコック、ドムアン空港え到着。F君の奥さんと娘さんが迎えに来て居り、早速車でホテルえ。

1、ホテル

今回の旅行の楽しみの一つは、世界で三指に入ると云われるザ・オリエンタルでの宿泊である。予め日本で予約したものの、フロントでの交渉はすべてF君の奥さんがタイ語でやってくれる。ベルボーイの案内で旧館え。特徴は、各階の部屋はすべて廊下から数段の階段で降りて部屋に入る構造になって居り、窓が、チャオプラヤ河に面している事である。部屋は広く、大きなダブルベット、荷物を置く棚がベットの側にあり、河に面した所に大きなソファセット

とみえさとし



が並んでいる。その横に小さなダイニングルームが有る。

遅いので早速シャワーを浴びて寝む。

F君の奥さんの設定で2日目の朝食はルームサービス。ダイニングで眼下のチャオプラヤ河を眺め乍ら食事を撮る。チャオプラヤは雨期なので濁流で満々。フェリー、連なったジャンク、通勤客をすし詰めにした通い舟、観光客用のクルーザー、その間を縫って名物の水上タクシーが水しぶきをあげて走り廻っている。2日目も同じ部屋に泊る。3日目はピサヌロークのホテルで一泊。まあまあの田舎のホテルである。最後の夜は再びオリエンタルに宿泊。今度はスキートの約束なのでランクの上の部屋が用意されている。新館の17階、角の部屋で、



さすがにすばらしい。眼下にチャオプラヤ河が眺められ、ベランダに椅子が置いてあり、河から吹く風を楽しみ、河辺の夜景を見る事が出来る。大きな部屋がリビングとダイニングの両方に別けられ、ファックスを置いた広い机で事務を取る事が出来る。

ゲスト用のシャワールーム、トイレが別にある。暑い国なのでお客さんの為に考慮しているのであろう。リビングのテーブルの上には大きなフルーツバスケットが置いてあり、ゆったりしたソファセットがそれを囲んでいる。ベツトルームは、これ又、広びろしている。大きなツインベットが並んでいる。横に荷物を置く小部屋があり、シャワールーム、トイレが別々になっている。大方のホテルはバスタブの横にトイレがあるが此処は別であった。日本人の私に取ってトイレとバスタブが一緒に有るのが寂然としなかったので、今回はゆっくり使用出来た。夜もゆっくり眠れる。先日の旧館では、窓を叩く雨音に夜半目が覚めたが、そんな点も配慮しているのであろう。枕の上に小さな花（タイ特有の蘭）を挟んだメッセージが置いてある。

Sleeping is no mean art:
for its sake one must
stay awake all day.

Nietzsche

ニーチエの言葉の様であるが、哲学者の言葉はびんと来ない。「ねむり、それは毎日、起きねばならぬと云う事の為にある、意味の無い芸術である」。睡眠を哲学的に如何に解釈するのか、わけのわからぬ事を考えている中に眠ってしまった。ニーチエの言葉はねむりを誘う為の手段かなと、朝起きて考え込んだ次第である。サンセットモーム、大宰治とか有名な人の泊った部屋はその儘残してあるとか……。まだもっと立派な部屋が有る様であったが、今度来た時はシャングリラ、デュシタニクラスが妥当であろうと感じたのが、偽らぬ田舎っぺの感想である。

2、観光

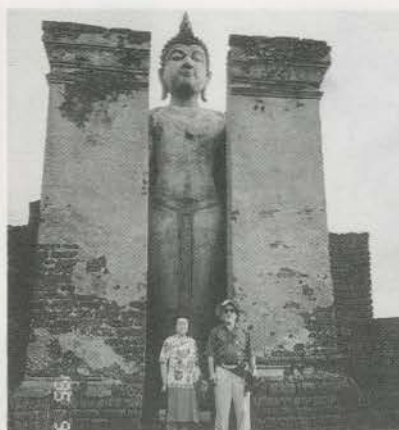
第2日目は、ゆっくりバンコックの街を車で走る。F君の経営しているチェーンレストランを見廻る。彼の成功に祝意を送り乍ら。

第3日目は、朝10時にF君の奥さんがホテルに迎えに来る。ドムアン空港の国内線のターミナルへ出掛ける。北方のピサヌロークエジェットで出掛け、其処からスコタイを見物するとの事である。スコタイは十二世紀に栄華を極めたスコタイ王朝の宮殿跡、寺院、仏像が到る所に在る。寺院の跡

を訪れる。大きな仏像を中心として、小さな仏像がこれを囲んでいる。小さな仏像は首が無かったり、腕が缺けたり、指が無かったり。価値のあるものとして盗まれたのであろうか、戦火でやられたのであろうか。体の中が露出している。煉瓦で固められ、その上を漆喰いで被っている。当時、煉瓦を使用して居たのであろう。古い仏像の顔、形は日本のそれと異なる。撫で肩、軀幹の柔さ、胸に小さな乳首が着いている。女性とは云えないが、ふくよかな伸びた指は優しさを感じる。小乗仏教の故であらうか？。

夜はピサヌロークえ宿泊。夕食後、車で屋台を見に行く。F君、「日本のテレビに紹介されたそうですよ」と説明し乍ら私達を連れ歩く。‘ほうれん草、を放り投げて離れたお客の皿に入れる曲芸が有名とか。昔は道路の反対側の厨房から、道路を隔てて待つて居るお客の皿え、炒めた‘ほうれん草、を放り投げて入れる離れわざをやって居たらしい。最近では、注文して、皿を持って近くに固定されているバスの屋根に階段で登り、下から放り投げる‘ほうれん草、を皿で受けている。私の目の前で5回やり1回だけ失敗して居た。面白いショウである。アメリカ人であらうか、派手なジェスチャーで‘ほうれん草、を受けて奇声を挙げている。観客から拍手喝采。

翌日もワゴン車で仏像めぐり、博物館の見学である。古い陶器、生活の品々を眺め、生活様式の違いを色々と想像。道路脇に、ぼつんと粗末な家があり軒先の盤台に茶碗、壺、仏像、瓦片等々並べて居る。本当に古いものと云う感じがする。数年前、タイを



訪れ、アユタヤで年代物(?)の極採色の茶碗を購って帰り、お湯に入れた所、色が全部はげた経験のある家内は騙された積りでと缺けた壺を購入。聞く所に依ると古さを作る技術は世界一だとか?。人を騙すテクニックも世界一かも知れない。本当は安い骨董を買ったと喜んで居る客の方が悪いのだろうか?。

古い宮殿跡、壊れた仏像、太い柱のみ残っている仏殿、静かな旧跡を廻り歩き、昔を偲ぶのも又一興であった。

3、食事

今回は狙って居たトムヤムクン(世界三大スープの一つ)のうまいのにお目に掛れなかった。只、第2日目の夜、F君宅へ夕食に招かれ、タイ人のアヤさん(阿媽の意)のタイ料理に感激。独特のスパイスを使った料理を一つづつ説明を受け乍ら口に運ぶ。カノムチン(鳥のカレーかけ)、クンパオ(川えびの焼物)、トーマンプラー(魚のすり身揚げ)、プーチャーア(蟹の肉づめ)等々。此度、始めて気附いたのは一般に薄味であり、調味料を好みに合せて使って居る事であった。ナンプラー(魚醬)、酢(酢の中に青、赤の唐がらしの輪切りが入っ



ている)、赤い唐がらし粉、砂糖が必ずテーブルの上に並んでいる。日本え帰って吾が家でも、ナンブー、唐がらし入りの酢を使っているが仲々変わった味でおいしい。

(家内は手を付けず、私だけの好みである)

第2日目の昼はスキー(日本のすき焼が語原とか)を御馳走になる。日本の寄せ鍋としゃぶしゃぶを一緒にした様なもの、肉、魚、野菜を汁につけて食べ、最後に残ったつゆで雑炊を作って食べる。一寸、頂ける。

第3日目の朝、ホテルのレストランで食べたお粥は格別であった。メニューの隅っこにBoiled Rice Soupと書いてあったので内容をChickemと云って注文、えび、豚肉のお粥もある。さすが、お粥の注文は私達夫婦だけで、見廻しても誰も食べて居ない。30分以上も待たされてやっと出て来る。タイ米がさらっとして、ごま油、にんにくの香りがかすかにしている。香港で食べたのよりうまい。家内も「おいしいね」と云って居る。周田の人にはオリエンタルでお粥を食べる変った日本人と写った事であろう。その後、コーヒーを持って来る。お粥とコーヒーも面白い組合せである。

第3日目、空港のレストランで、現地人の間に混じって「そば」を食べる。米の粉で作った細いそば。ねぎが入っただけ。適当にテーブルの上の薬味で味を調整。まあまあである。

夜は、F君が「一番うまい所へ連れて行きますよ」と云って行った所が満員で入れなかった。邱永漢さんの推賞の店だとか。席を探して三階まで入って見たものの、どのテーブルも満員。垣間見た食事の風景は、騒々しいの一言に尽きる。大きな声で喋りながらパクついて居る。現地人の雰囲気浸って食べたかった代物であった。次回の楽しみに取って置く事にする。

特筆されるのは新鮮な果物である。マンゴー、パパイヤ、水瓜、パイナップル、ランブータン、みかん等や、新鮮なフルーツはタイを訪れる楽しみの一つである。喰いしん坊なので、うまいものを探し歩くが、今回は屋台に頭を突込めなかったのが残念であった。

前回は気附かなかったが、スーパーの食品売場には色々パックに詰められたものが売って居る。空港の売店にも「トムヤムクン」「めん」「スープ」「カレー」等のパックが売っている。タイの思い出にと買って帰り、頭から湯気を出して辛いものにトライしたものの、原地で食べる味には適はない。

私に取ってタイは楽しみの多い国である。来年、又出掛けて、やり残した事をやろうと期待して居る。

役員協議会報告

第126回 定例代議員会の報告

会長 近藤龍一

10月26日(木)に行われ前田副会長と共に出席しました。議案は平成7年度上半期の事業報告、平成6年度の一般会計決算報告で、これらはいずれも満場一致で承認されました。内容もとくに注目すべき点もなく、詳しくは会報をご覧ください。

議決案件として「山口県医師会館建設のため山口県医師会員からの借入金について」

「山口県医師会の土地処分について」の議案が提出されました。医師会館建設のために会員が資金の一部を拠出することを定めたもので、1) A会員は30万円、2) B会員は3万円、3) C会員で拠出に賛同するものは3万円を拠出するという事です。承認されましたので、上記金額が決定したということです。上記拠出金は平成8年度末までに納付しなければなりません、15月の均等分割も認められます。但し、B会員は平成8年12月末日までに支払わねばならず、分割は認められないようです。これらの拠出金は税制上、貸付金として処理するようにいわれました。会員が死亡もしくは退会したときは全額返還されますが、無利子です。納入方法、手続等は説明されませんでしたので、いずれ県医師会から通知されることと思います。いずれにしても、上記の拠出金のことはしっかり認識しておいていただき度いと思います。

土地処分については、現在会館の建って

いる土地が531坪あり県医師会の所有です。これを売却処分するわけですが、鑑定が坪当たり63万円で、総計3億3千5百万円となり、これを建設資金に操入れようというわけです。既に売れたわけではありませんが、山口県はバブルの影響を受けなかった為、幸いであったということです。

平成7年度医師会

産業保健担当理事協議会の報告

副会長 前田昇一

9月28日(木)、県医師会館で開かれた上記協議会の概略をご報告します。

〈協議1〉平成6年度産業保健関係事業報告が高田常任理事よりなされた。主なものは、地域産業保健センター(産業医による保健サービスを提供する)が防府地区に開設されたこと、認定産業医のための研修会を少しでも受講しやすいものに努め、産業医の資質向上に役立つ諸協議会を予定通りこなした事など。

〈協議2〉平成7年度産業保健関係事業計画について、高田常任理事より説明があった。その主旨は、労働者の心身の保健対策、AIDS対策、快適な職場づくりなど、年々複雑で責任の重くなる産業医の職務に対応出来るように研修会を充実していきたい。また、地域産業保健センターは、本年度下関地区に設置。今後の研修会の予定は、①12月17日(日)於、県医師会館、花粉症関係。②8年1月於、広島(広島県と合同)。③2

月4日(日)於、徳山医師会。産業衛生学会と合同。④2月18日(日)於、山口県教育会館、輸血と出血。

〈協議3〉第17回産業医活動推進全国会議の報告が水木常任理事からなされた。それによると、労働衛生の主眼が職業病対策から、労働者個人の健康管理へと移り、地域に根ざした「かかりつけ医」を中心とした産業医活動が期待される時代となった。そのためにも、地域産業保健センター事業が医師会員に周知される必要性について報告された。

〈協議4〉中国四国医師会連合医学会の報告が水木常任理事よりなされた。「これからの産業保健活動」に関するワークショップがあり、話題は、①地域産業保健センターの活動に関するもの、②THP(total health promotion)活動一心と体の健康づくり、③健康スポーツの役割などであった。

〈協議5〉地域産業保健センターについて、水木常任理事より、県内における小規模事業所(従業員50名以下)の労働者の健康管理・相設を目的とした同センターの設立とその動向に関し説明があった。次に、平成5年設立の徳山、6年設立の防府、7年設立の下関と3つの労働基準監督署の管轄区域のセンターの現状説明が、各市の担当理事からなされた。それによると、運営予算は年間450万円位。事業としては、健康相談窓口の設置、個別指導、運営協議会開催などで、具体的には定期健康診断およびその事後処理や、事業所への医師または保健婦の派遣、年2回の運営協議会を行うことなどである。医師は、認定産業医とそれ以外の

希望者で構成され、週1回、3時間位の出務が平均的である。同センター設立は、手上げ方式で順次決定されており、下松労働基準監督署管轄区域でも、その設立に関し意志表示をする時機に来ているように思われるが、今一つ気運の盛り上がりが乏しいようである。

平成7年度郡市医師会

労務担当理事協議会

担当理事 藤村 朴

1. 平成7年度医業事業計画

大多数の医療機関においては診療報酬の伸び悩み、消費税の導入や人件費の高騰等により経営は悪化の一途をたどっている。

山口県医師会としては、このような医療環境の中で良質な医療を提供するために会員各位に協力を求めながら、県民に医療の公共性、非営利性ということを積極的に訴え理解を求めていく。また日本医師会や関係行政機関との連携を密にして会員の健全で安定した医業経営ができるように努力して行きたい。

①医業経営対策

悪化する医業経営に係る諸問題について調査・研究・対応を進め、会員の健全で安定した医業経営と福祉に資したい。

②労務対策

労働者の労働時間短縮が進められている平成6年度から、全事業所に週40時間労働(44時間での移行措置、平成9年3月31日まで)が適用されたことに伴い、医療機関

の週休2日制への対応も急務となってきた。医業経営をめぐる環境は非常に厳しいが、高齢化社会、少子化社会などが急速に進む中で医療従事者確保とともに従業員の労務管理対策は今後の最重点課題となっている。

(付) 10月12日(木)

講演 労働時間管理について

—特に時短奨励金制度の活用—

講師 山口労働基準局監督課長 植松弘

平成7年度4月以降の法定労働時間

保健衛生業

301人以上	40時間(1週)
101~300人	44時間(〃)
31~100人	44時間(〃)
10~30人	44時間(〃)
1~9人	46時間(〃)

時短奨励金

支給の対象となる中小企業は

- ①300人以下の44時間の事業
 - ②週所定労働時間1時間以上短縮すること
 - ③300万円以上の省力化投資等を行うこと
- 支給額は

短縮時間によって

1~30人	2時間以上	50万円
31~100人	〃	150万円
101~300人	〃	300万円

2. 医療に関する税制に対する意見(日本医師会)

- ①消費税による医療機関の損税を解消する特別措置を講ずること
- ②社会保険診療報酬に対する事業税の特別措置を存続すること
- ③医療法人の事業税については、特別法人としての軽減措置を存続すること

④社会保険診療報酬の所得計算の特別措置を存続すること

⑤医業を承継する時の相続税制度を改善すること(県医師会配布の資料より)

10月定例理事会

日時: 10月18日(水) 午後7時30分~

場所: 医師会事務局

出席者: 近藤、前田、藤村、赤崎
光武、藤原、市川、吉村

議題:

- 1) 郡市産業保健担当理事協議会の報告
(前田副会長)
- 2) 郡市労務担当理事協議会の報告
(藤村理事)
- 3) 入会金等の改訂について(近藤会長)
近藤会長作製の原案を検討し合意。
臨時総会に提出の予定
- 4) 新規開業の件 (近藤会長)
2年後のため継続審議とする。
- 5) 医師会会計報告(4半期の2)
(前田副会長)
的確に処理がなされており了承
周南医学会特別会計報告(中間報告)
(前田副会長)
- 6) 周南三市医師会役員会の件(近藤会長)
- 7) その他
 - イ) 光三師会理事会の件
 - ロ) 保健センターより要望
6才以下のツベルクリン・BCGを個別接種にして欲しいとの要望があった。協議の結果、今迄通り集団接

種と回答する。

光市医師会と光市健康をつくる婦人の会との交流会

日時：10月17日、午後7時30分～

場所：光商工会議所

出席者

医師会—近藤、前田、光武、赤崎

梅田、藤村、藤原、吉村

光市健康をつくる婦人会—13名

光市保健センター—4名

(氏名は割愛しました)

交流会次第

1) 光市医師会長挨拶

2) 講話：成人病のしくみ

医師会 赤崎信正理事

3) 意見交換

光市三師会理事会

日時：10月27日(金) 午後1時～

場所：光商工会館

出席者：

(歯科医師会) 守田、佃、

(薬剤師会) 松本、大戸

(医師会) 近藤、前田、吉村、

議題：

1) 三師会行事の件

2) 会計報告(H7-4-1~9-30)

勉強会

レントゲン勉強会

日時：10月3日(火) 午後7時～

場所：光商工会館

出席者：7名

講師：徳山中央病院 岡本安定先生

心電図研究会 (第88回)

光市・下松医師会合同

日時：10月13日、午後7時30分～

場所：勤労福祉センター

出席者：11名(光市8名)

症例：

- 1) 20才 ♂、主訴—胸部絞扼感、診断—心臓神経症
- 2) 82才、♀、主訴—全身倦怠感、診断—低K血症(QT延長)
- 3) 58才、♂、ペースメーカーをいれた症例が、心筋梗塞を発症した症例

会員動向

(退会)

・香浦留美子先生(梅田病院)

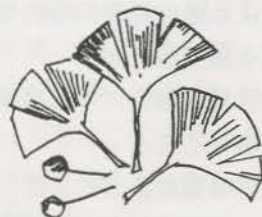
10月1日退会

・今村竜治先生(光市立病院)

9月30日退会

(入会)

・白倉祥晴先生(光市立病院)



10月医師会月間行事

日	行 事	場 所
3	レ ン ト ゲ ン 勉 強 会	光 商 工 会 館
3	周 南 医 学 会 準 備 委 員 会	光 市 民 ホ ー ル
8	周 南 医 学 会	光 市 民 ホ ー ル
13	心 電 図 勉 強 会	光勤労者総合福祉センター
17	光市医師会と光市保健をつくる婦人の会との交流	光 商 工 会 館
27	三 師 会 役 員 会	光 商 工 会 館

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

11月23日は戦前は新嘗祭と呼ばれ、戦後は勤労感謝の日と名称が変わりましたが、2つの呼び名がどのように結び付いているのかと思っておりました。先日ある本を読んでおりました、新嘗祭は皇室の収穫祭の儀式であって勤労のおかげで農作物や生産物に恵まれることを祝う日をいう事で、23日を勤労感謝の日と呼ばれるというような意味合いの事が書いてありました。

今月号は周南医学会の特集号としたのですが、特別に目新しい企画も思い浮ばず、特集とはいいにくいものになってしまいました。会員の先生方の寄稿文や話しを聞いておりました、いろいろご苦勞が伝わってまいります。あらためて、近藤会長をはじめ会員の先生方に、ご苦勞さまでしたと申し上げます。

光市医師会の今年度の勤労感謝の日は10月8日の翌日であったのかもしれませんが。

(吉村)

光市医師会報

科	名	氏名	性別	年齢	出身	資格	備考
内科	近藤 龍一	男	45	東京	昭和21年	内科	
外科	田中 健一	男	42	東京	昭和21年	外科	
小児科	山田 隆夫	男	40	東京	昭和21年	小児科	
産科	佐藤 美穂	女	38	東京	昭和21年	産科	
皮膚科	鈴木 浩二	男	35	東京	昭和21年	皮膚科	
泌尿科	高橋 誠一	男	33	東京	昭和21年	泌尿科	
放射線科	中村 隆夫	男	30	東京	昭和21年	放射線科	
歯科	伊藤 隆夫	男	28	東京	昭和21年	歯科	
眼科	渡辺 隆夫	男	25	東京	昭和21年	眼科	
耳鼻科	山本 隆夫	男	22	東京	昭和21年	耳鼻科	

光市医師会報は、光市医師会が発行する会報です。本会報は、光市医師会の活動や、光市の医療の発展について、読者に情報を提供することを目的としています。本会報は、光市医師会の会員や、光市の医療関係者、市民の方々に広く読まれています。本会報の内容は、光市医師会の活動報告、光市の医療の現状、光市の医療の発展について、読者に情報を提供することを目的としています。本会報は、光市医師会の会員や、光市の医療関係者、市民の方々に広く読まれています。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤 龍一
編集者	広報 担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社